

## 目的

魅力ある「持続可能なもうかる水産業」への構造改革に挑戦し、養殖技術の改善を通じた魚類養殖の生産性向上と法人化の推進による経営力の向上を図ることで、地域漁業の活性化につなげる。

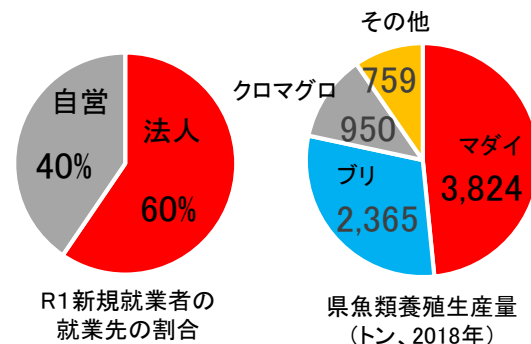
## 事業の必要性

### ●魚類養殖の法人化を進める必要性

- ・ 零細な個人経営体の多い本県の魚類養殖業は、経営効率が悪く、担い手不足も深刻。
- ・ 魚類養殖業の経営を強化し、あわせて新規就業者の受け皿を増やすため、賃金や労働時間が明確な法人化の推進による構造改革が必要。

### ●低コストで高品質な養殖魚の開発や計画出荷体制の構築を進める必要性

- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響により、マダイの流通が停滞し、単一魚種に依存する本県の魚類養殖経営の脆弱性が顕在化。
- ・ 養殖魚の生産コストの削減と高品質化、ICTを活用した養殖魚の効率的な生産管理など、生産性を向上させる技術開発が必要。



## 取組内容



トラウトサーモン

### (1)新技術の導入による生産性の向上 (3,805千円)

- ・安価な酒粕や昆虫を用いた代替タンパク飼料により、マダイ等の大規模養殖試験等に取り組み、生産コストの削減と高品質化を図る。
- ・養殖魚の選抜育種技術を導入して、高水温耐性、耐病性等の高い養殖魚の生産体制を構築。
- ・環境変化に対応した、ワクチン2回接種等の新たな技術確立を通して養殖マハタを安定的に生産し、市場ニーズに対応可能な養殖業の実現をめざす。

### (2)リスクヘッジに向けた新しい魚類養殖業の導入 (6,002千円)

- ・ ICT端末で養殖魚の生産履歴、尾数等の情報を簡便に管理するシステムを構築し、商機を逃さず販売できる生産管理を実現。
- ・ マダイ依存の脱却と長期養殖リスクを低減するため、中食・内食需要が高いトラウトサーモンの短期間での海面養殖技術を開発。

### (3)魚類養殖法人化モデルの推進 (-)

- ・ R3年度で終了

## ニューノーマル時代の水産業の活性化

- 法人化により、水産業への新規就労希望者の間口が広がる。
- 構造改革でリスクに強い魚類養殖が構築され、収入が安定化することで地域水産業が活性化する。